

地域包括
ケア病棟



自宅療養を支える 地域包括ケア病棟

津島市民病院は急性期病棟だけでなく、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟といった病棟もあり、患者さんの状態に応じた入院治療に対応しています。

病棟紹介の最後となりました今回は、地域包括ケア病棟についてご紹介します。当院の地域包括ケア病棟(48床)は西病棟の3階にあり、平成28年3月に承認されてから現在で4年目に入りました。

(平成30年12月号に急性期病棟、平成31年1月号に回復期リハビリテーション病棟、2月号に緩和ケア病棟を紹介しています)

問合 市民病院管理課管理G ☎28-5151(内線2201)

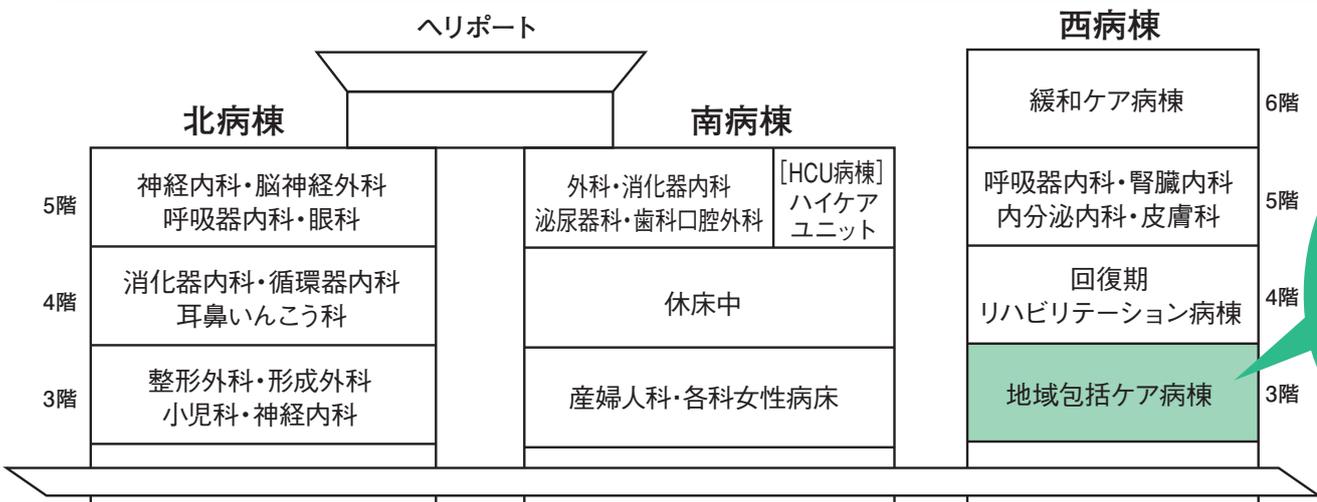
地域包括ケア病棟とは

地域包括ケア病棟は、在宅復帰を目標にして、患者さんが自宅に戻れるように支援していくための病棟です。この病棟で治療を受ける患者さんは、「急性期からの受け入れ」と「在宅からの受け入れ」の主に2つの経路で入院します。どちらの経路で入院されても、患者さんが自宅に戻れるよう安心して療養できるように支援しています。

急性期からの受け入れ

急性期病棟の在院日数の平均は11日前後です。長くても1カ月程度で退院することがほとんどです。
ただ、急性期での治療が終了し、状態が安定したとしても、すべての患者さんがすぐに自宅に戻り、日常生活を送れるわけではありません。自宅へ戻るのが不安のある患者さんもいます。継続的に治療が必要な場合や、ADL(日常生活動作)が低下しているためにリハビリが必要な場合もあります。
そのような患者さんは、地域包括ケア病棟へ転棟し、自宅へ戻るための準備をします。

西病棟



地域包括ケア
病棟はここ！

在宅からの受け入れ (レスパイト入院)

レスパイトとは休息・息抜きという意味です。地域包括ケア病棟では、事前登録をされた方のレスパイト入院を受け入れています。

対象となるのは、自宅療養されている方や、障がいや難病をお持ちの方などのご家族が、休養したい時や病気で



「地域包括ケア病棟」と「急性期病棟」との違いって？



緊急手術などの高度医療が必要な患者さんの受け入れは、急性期病棟で対応します。地域包括ケア病棟は、治療が安定し、自宅で安心して過ごすための準備をする病棟です。
また、在宅療養中の方のレスパイト入院も受け入れています。

じゃあ、「回復期リハビリテーション病棟」との違いは？



回復期リハビリテーション病棟も地域包括ケア病棟もリハビリをし、機能回復・自宅復帰を目指すことは同じです。
回復期リハビリテーション病棟は、集中的なリハビリを行うための病棟で、脳卒中や大腿骨頸部骨折などの患者さんが入院します。
これに対し、地域包括ケア病棟では、病名によらず自宅に戻るために必要なリハビリを受けることができます。



介護ができない時など、一時的に自宅での療養が困難になった場合に短期間入院していただける制度です。ご家族の負担を少しでも軽減し、地域での自宅療養を支えています。
先月ご紹介した、緩和ケア病棟へのレスパイト入院は、がん患者さんのご家族の方が休養したい時などに利用するためのものです。

在宅療養後方支援体制

在宅療養している患者さんやご家族が安心して自宅で過ごせるように、在宅医療担当医(かかりつけ医)と市民病院が情報共有し、スムーズに入院受け入れを行う制度です。

在宅療養している患者さんで、事前に在宅医療担当医を通じて登録をした方は、レスパイト入院のご利用ができます。また、緊急時に在宅医療担当医が入院の必要があると判断したときは、市民病院がいつでも受け入れ、急性期病棟に入院できます。

ご不明の点は、地域医療センターにご連絡ください。

地域医療センター

☎ 28-15151 (内線2113)
☎ 28-6653



▲リハビリの様子

4回にわたり、市民病院の病棟について紹介してきました。



▲レクリエーション(塗り絵)の様子

市民病院は、急性期医療にしっかりと対応していくことはもちろん、急性期医療が終わってもすぐに自宅などへ戻ることが不安な方のために、地域包括ケア病棟で安心して自宅に戻るようになっています。機能回復にリハビリが必要な方には回復期リハビリテーション病棟において十分なリハビリを行い、社会復帰を目指しています。がんによるあらゆる苦痛の緩和を目的とした緩和ケア病棟もあり、患者さんの状態に応じた入院治療に対応しています。

市民の皆さんが安心して暮らしていただけるよう、「地域に必要とされ、なくてはならない病院」となることを目指しています。